

感染対策「優良県」3知事が専門家のコロナ愚策をバツサリ！尾身会長にまず反省の弁を

2022年08月08日日刊ゲンダイ



「受診控え」に待った！（平井伸治・全国知事会会長兼鳥取県知事）／（C）共同通信

新型コロナウイルス第7波の感染拡大が止まらない。7日の新規感染者数は6日連続で20万人を超え、重症者数は551人と上昇傾向が続く。8月の死者数はわずか1週間で1000人に達した。ところが、国や専門家が打ち出す対策は的外れ。コロナ対策「優良県」の3人の知事から“コロナ愚策”への苦言が相次いだ。

全国知事会の会長を務める鳥取県の平井知事は4日の記者会見でこうキッパリ。

「日本感染症学会などが軽症の場合、検査

や薬のための受診は不要だとか、37.5度の発熱が4日以上続く場合に受診してくださいとか言っていますが、これは鳥取県は取りません」

発症時にかかりつけ医に相談し、診断や検査を受けることを呼び掛け、「それが早期治療につながり、重症化を防ぐ」と強調した。きのう時点の県内の重症者数はわずか1人だ。

和歌山県は病床使用率が約7割と病床逼迫が深刻。しかし、政府が新設した「BA.5対策強化宣言」は発令しない。仁坂知事も4日の記者会見でこう切り捨てた。

「宣言したところでどうなるか。政府の専門家が県にお越しになる。はっきり言って邪魔。やってもしょうがない」

医療保健機関の負担増大に危機感を示し、「そういう所にたくさんのお金をあげると言われれば、喜んで宣言する」と国への要望も忘れなかった。

説得力のある正論



（左から）和歌山県の仁坂吉伸知事、島根県の丸山達也知事（C）日刊ゲンダイ

島根県の丸山知事は4日の記者会見で尾身茂氏ら政府分科会有志の「緊急提言」に怒り心頭だった。

「政府の対応がなっていないという趣旨の会見をされたが、どの口が言うのかと、おまえが言うかと。そもそもこんな状況になってしまっている責任をあそこに並んでいる人たちは負ってますよ」尾身氏らの提言は「頭に入ってこない」とし、「最初に言うべきは、こ

の状況を阻止できなかったことに対する反省の弁からではないか」と厳しかった。

コロナ失政の張本人でもある尾身氏らの提言には違和感があった。丸山知事の発言はすんなり頭に入ってくる。

「3知事の指摘は正論だと思います。3県は的を射たコロナ対策を実行してきました。コロナ失政を繰り返してきた政府や尾身会長などの専門家よりも、説得力があります。政府や全国メディアは、もっと3知事に耳を傾けるべきではないか」(西武学園医学技術専門学校東京校校長の中原英臣氏=感染症学)

岸田首相に3知事の正論は届くのか。